

## 令和4年度第6回教育委員会定例会 会議録

◇ **開催年月日** 令和4年9月1日（木） 15時30分開会  
16時50分閉会

◇ **開催の場所** 女性第一・第二研修室

### ◇ **出席者**

教育長	原之園 哲哉
委員	津曲 貞利
委員	小栗 有子
委員	立元 千帆
委員	前田 圭子

### ◇ **説明のため出席した者の職氏名**

管理部長	中 豊司	教育部長	山下 聖和
総務課長	小村 真二	学校整備室長	岩坪 秀樹
施設課長	矢崎 順一	文化財課長	圖師 みゆき
美術館副館長	池田 雅光	図書館副館長	小城 裕子
学務課長	佐土原 隆	学校教育課長	中村 武司
学校ICT推進センター所長	木田 博	保健体育課長	池田 隆
青少年課長	吉元 利裕	生涯学習課長	山下 久美子
少年自然の家所長	西國原 学	中央学校給食センター所長	濱田 有希

### ◇ **書記**

総務課主幹	黒木 浩幸	総務課専門員	梶山 寛之
-------	-------	--------	-------

◇ 議事日程

- 1 開 会
- 2 会議成立の宣言
- 3 会議録署名者の指名
- 4 会議の公開等について
- 5 議 案
  - 定第 3 4 号議案 代決処分の承認を求める件  
〔鹿児島市教育委員会事務局等の職員の任免について〕
  - 定第 3 5 号議案 令和 5 年度鹿児島市立高等学校学科別募集定員を定める件
- 6 報告事項
  - (1) 桜島地域における義務教育学校の取組状況について
  - (2) 鹿児島市立小中学校区審議会からの答申について
  - (3) 令和 4 年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
  - (4) 令和 4 年度全国学校体育研究功労者について
  - (5) 第 1 回「鹿児島市部活動の地域移行等に関する検討委員会」の開催について
  - (6) 「令和 4 年度（令和 5 年 1 月）はたちの集い」について
  - (7) 冒険ランドいおうじまについて
  - (8) 教育委員会関係の主な行事について
- 7 その他
- 8 閉 会

## ◇ 会議要旨

### 1 開会

教育長 ただいまから、令和4年度第6回教育委員会定例会を開会します。

### 2 会議成立の宣言

教育長 本日は全員出席し、定足数に達していますので、会議は成立しております。  
本日の議事日程は、お手元に配布したとおりです。

### 3 会議録署名者の指名

教育長 本日の会議録署名は、小栗委員と私が行います。

### 4 会議の公開等について

教育長 会議の非公開についてですが、本日審議する定第34号議案は人事・人選等に関する案件、定第35号議案は後日県において一斉に発表される高等学校の募集定員の案件、報告事項(2)、(5)、(7)は意思形成過程の案件、報告事項(6)は後日公表を予定している案件ですので、非公開で傍聴を禁止する取扱いとしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

教育長 ご異議もないので、そのように取り扱います。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### 5 議案

#### 定第34号議案 代決処分の承認を求める件

〔鹿児島市教育委員会事務局等の職員の任免について〕

**承認**

【本議案は非公開】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

#### 定第35号議案 令和5年度鹿児島市立高等学校学科別募集定員を定める件

**原案可決**

【本議案は非公開】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

## 6 報告事項

### (2) 鹿児島市立小中学校区審議会からの答申について

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### (5) 第1回「鹿児島市部活動の地域移行等に関する検討委員会」の開催について

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### (6) 「令和4年度（令和5年1月）はたちの集い」について

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### (7) 冒険ランドいおうじまについて

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

### (1) 桜島地域における義務教育学校の取組状況について

教育長 報告事項（1）について、学校整備室長、説明をお願いします。

事務局（学校整備室長） 報告事項関係資料（1）をご覧ください。1の概要ですが、桜島地域における義務教育学校については、今年6月に基本構想を決定し、6月22日から8月1日まで、基本・実施設計の公募型プロポーザルを行い、応募のあった12者のうち、8月9日の一次審査で4者が二次審査へ進みました。8月29日に二次審査のプレゼンテーション及びヒアリングを公開で行い、その後の審査で設計候補者と次点を決定し、設計候補者とは9月中の契約を予定しております。2の経緯ですが、公開で行った8月29日の二次審査のプレゼンテーション及びヒアリングは、地元住民の方々や建築を学ぶ学生など、85名の傍聴がありました。3の基本・実施設計業務のプロポーザルの結果についてですが、決定した設計候補者は、「一級建築士事務所 大西麻貴+百田有希/o+h」です。設計コンセプトは「桜島まるごと学校」、選定された理由は、建物の独自性や桜島における教育を総合的に考えている点が、特に高く評

働かれたところでは。別紙をご覧ください。これは提案書の一部ですが、「桜島丸ごと学校」として、子供たちの生きる力を育む学校をつくることを設計にあたっての基本姿勢としています。また、子ども達の活動の起点となる、ホームとしての学校がふさわしいと考えて、第2の家のように棟が集落的に集まり、桜島と錦江湾への眺望にも配慮した配置とするコンセプトです。これまでの実績は、山形市南部児童遊戯施設や多賀町中央公民館「多賀結いの森」などがあります。また、来年開催される「ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」においては、代表の大西麻貴氏が、日本代表として日本館の展示を企画し、とりまとめるキュレーターに就任されるなど、新進気鋭の若手建築家の二人が共同代表となっている建築事務所です。次点は、日総研・みのだ共同企業体で、設計コンセプトは桜島に呼応し、まちが溶け込む学校でした。4の今後のスケジュールですが、基本設計については、契約後、10月から設計業者がワークショップを開催し、地域住民や保護者、子供たちなどに対し、設計のコンセプトについて説明し、それを理解してもらったのち、新校舎に対する要望等を聞いて整理し、設計に活かしながら、今年度中に完成させる予定となっております。また、このワークショップでは、廃校の跡地活用も検討していくとのことですのでございます。以上です。

教育長 この件について、ご質問等ございませんか。

委員 今後、ワークショップをしながらやっていくということですので、作る過程が既に学びだと思うので、情報発信など、ぜひご検討いただきたいと思えます。

事務局（学校整備室長） はい。ぜひそのように進めていきたいと考えております。

教育長 他に、ございませんか。

（なしの声あり）



### **(3) 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について**

教育長 報告事項（3）について、学校教育課長、説明をお願いします。

事務局（学校教育課長） 報告事項関係資料（3）をご覧ください。4月19日に行われた「全国学力・学習状況調査」結果の本市の概要について報告します。はじめに、1の「調査の概要」についてですが、（1）調査の目的と（2）実施学年・学校数等については、後ほどご覧ください。（3）の調査内容は、国語、算数・数学、理科です。理科は、平成30年度以来の実施でした。2の「教科に関する調査結果」をご覧ください。本市の平均正答率は、2の表の太線で囲んでいる部分です。本年度、本市は、中学校数学以外の教科において、県・全国平均を上回っており、中学校数学は、県平均を上回っておりますが、全国平均をやや下回っております。この中学校数学は、「数と式」の領域の「知識・技能」を測る問題で全国との差が見られましたが、「思考力・判断力・表現力」を測る記述式の問題は、全国平均を上回っている問題も見られ、これまでの各

学校の取組の成果が現れております。その他の教科についても、現在、各問題の平均正答率や内容を領域別に、傾向分析をしております。定着が低い内容等が明らかになっていきますので、それを基に校内研修や管理職研修会等で指導してまいります。各学校へも分析結果や対策等を報告書で提示しておりますので、それらも含め詳細を分析・整理し、各学校に指導していきたいと考えております。また、調査問題数は、各教科の平均正答率の下にある数です。次に、3の「質問紙調査結果」です。本市の割合は、表の太線で囲んでいる部分で、一部、特徴的なものをお示しします。まず、(1)の児童生徒に対する質問ですが、本市の児童生徒は、「読書が好き」「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合が、全国に比べ高くなっており、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した児童生徒の割合は、小学生、中学生ともに全国に比べ、低くなっております。また、「算数・数学が好き」と回答した割合は、全国に比べ高くなっておりますが、他の教科は低くなっております。次に、(2)の学校に対する質問で、これは、学校長が回答しているものです。「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、P C・タブレットなどのI C T機を使用させた」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は高く、中学校は低くなっており、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学生、中学生ともに高くなっております。また、「各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合は、全国に比べ、小学校は低く、中学校は高くなっております。今後、クロス集計を行い、その結果は各課とも情報共有して学力向上に繋げていきたいと考えております。次に、4の「今後の調査結果の公表等について」は、本市は、昨年同様、市ホームページにおいて、本市や全国・県の正答率、及び改善策等を公表する予定です。今後の活用については、今回の調査結果や過去の結果との比較を明らかにすることで対応策を示し、各学校の指導方法の改善に生かすよう指導してまいります。以上です。

教育長 この件について、ご質問等ございませんか。

委員 今後の調査結果の公表等について、正答率の数値は示さず、全国の平均正答率を100とした比較の値を示す理由を教えてください。

事務局(学校教育課長) 全国の平均正答率との関係性を明確にするという意味で、全国平均を100とした比較の値を示しております。また、各学校の数値による過剰な比較等がされないようにということも踏まえています。

委員 全国的に低かったら、「その分野はもういいか」みたいなことになりませんか。全国平均より低いことも課題なのかもしれませんが、全国的に子供たちが苦手としている分野が見つかり得るのに、「全国と同じだったらいいや」ということで、見過ごされないかということが気になっています。それは、どこかでカバーされているのでしょうか。

事務局(学校教育課長) 各学校においては、その辺を踏まえて、各学校の実態に応じた指導をしておりますし、国もあらためて正答率を考慮しながら、定着の低い

ところについては課題を示し、対応策等について指導が入ると思いますので、それも含めて、学校に話を進めていきたいと考えております。

教育長　もう少し詳しい分析等や疑問を出して、一番大事な事だと認識しておりますので、そのように進めていきたいと思っております。

委員　結局、この結果をどう評価するかだと思います。例えば、今回、中学校のP・C・タブレットの使用率は低いですが、それをどう評価するかです。基本的に平均点が低ければ、それは悪いことだと見られてしまいますが、その辺りはどうというふうに評価するのでしょうか。

事務局（学校教育課長）　全ての小中学校の配置が終了したのが令和4年1月です。それから、小学校と中学校の違いを考えれば、小学校は学級担任でやっていますので、全ての教えている教科の中で、ここはタブレットを使用できるのではないかとこのようにできるとは思いますが、中学校は教科担任制ですので、教科などにより、頻繁に活用されたところと、されなかったところがあり、このような結果に繋がったのではないかと考えています。

委員　タブレットを使う教育効果、あるいは使わない発想もあるわけですよ。単に教科担当の違いで片付けるのではなく、そこはもう少し責任を持って、こういった部分はタブレットが必要だけど、実はこういう部分はむしろ使わない方が効果があるということを説明して示せば、先生も自信を持ってできるし、その辺りが何も分からないと、タブレット使用率が低いとそれだけで良くないと解釈されがちだと思うので、どう説明していくのかご検討いただきたいと思っております。

事務局（学校教育課長）　中学校では、教科別に研修会等も行っていますので、そういったことを現場の先生方に具体的に示したり、また、現場の声も生かしていきながら、タブレットを使用した方が効果がある場合と、直接指導する方が効果がある場合とがありますので、選択を見極めながら指導に生かしていきたいと考えております。

委員　先ほどの調査結果の公表等についてですが、この公表は、ホームページでの公表を指し、学校には適切にデータを出しているんですよ。公表で全国平均を100にしてしまうので、実際は全国平均が30点でも100になるので、例えば「読解力が悪いよね」ということが分からなくなるんじゃないですかという話ですが、公表自体は市のホームページで出し、学校にはかなり細かく情報を出して、学校では対策をきちんと検討するわけですよ。

事務局（学校教育課長）　学校には各問題ごとに正答率が出ています。また、自分の学校の正答率、それから市と県、全国、全部含めて出ていますので、そういった部分での検討はできると思えますし、領域や内容ごとに出ていますので、それを基にしながら学校も分析を進められると考えております。

委員　ありがとうございます。4の（2）は、学校が、学校だより等で公表している内容をこの程度にしますという取り決めということですね。

事務局（学校教育課長）　はい、そのようにしております。

教育長　いずれにしても形式的なものにならないように教職員もしっかりと理解し

て、そして子供たちも理解して、本当の力を付けるようにしたいと思います。

教育長 他にございませんか。

(なしの声あり)



#### (4) 令和4年度全国学校体育研究功労者について

教育長 報告事項(4)について、保健体育課長、説明をお願いします。

事務局(保健体育課長) 議案つづりの6ページ、報告事項(4)令和4年度全国学校体育研究功労者について、報告します。全国学校体育研究功労者表彰は、公益財団法人日本学校体育研究連合会が表彰主体で、学校体育の研究・実践において成果を上げるとともに、県や地域において模範となり、学校体育に20年以上携わり、かつ退職者を含む満55歳以上であることなどが選考の基準です。本市からは、小学校一人、中学校一人の計二人を推薦し、伊地知 裕(いじちひろし)前鹿児島市立谷山小学校校長と、米森 基(よねもり もとし)前鹿児島市立桜丘中学校校長が受賞する運びとなりました。なお、表彰式は、令和4年11月10日、第61回全国学校体育研究大会滋賀大会の全体会において行われる予定です。以上です。

教育長 この件について、ご質問等ございませんか。

(なしの声あり)



#### (8) 教育委員会関係の主な行事について

教育長 報告事項(8)について、管理部長、説明をお願いします。

事務局(管理部長) 同じく6ページ、(8)教育委員会関係の主な行事についてです。

まず、鹿児島市立美術館特別企画展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」を9月30日から11月6日まで開催します。机上に配布したチラシの裏面をご覧ください。大正・昭和期に活躍した木版画家、川瀬巴水は日本各地を旅する中で目にした四季折々の風景を叙情的な木版画で表現し、「旅情詩人」と呼ばれました。企画展では巴水の代表作の他、同じ版元で制作した郷土作家、橋口五葉の作品をあわせて紹介します。アップルの創業者でも知られておりますスティーブ・ジョブズが、巴水と五葉の作品をコレクションしたことで知られております。次に、「市立高等学校の体育祭等」についてですが、高等学校では全3校、中学校では全39校が9月に実施を予定しております。小学校では全78校中11校が9月実施を、40校が10月実施を、5校が11月実施を予定しております。残りの22校は、春開催として5月に開催済みです。新型コロナウイルス感染症対策としては、種目の精選による時間短縮、無観客での開催、参観

者の制限など、開催時の感染状況に鑑み、適切に対応するよう指導しております。また、熱中症対策として、暑さ指数の測定、給水タイムのプログラムへの設定等を行いながら実施する予定です。最後に7ページをご覧ください。市郡中学校駅伝競走大会が9月29日に桜島溶岩グラウンド周回コースを会場として開催される予定です。以上です。

教育長 この件について、ご質問等ございませんか。  
(なしの声あり)

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

## 7 その他

教育長 最後に、事務局から何かありますか。

事務局 それでは、次回の日程について連絡します。

次回は10月21日(金)に、14時30分から教育委員会活動の点検評価における二次評価を、16時から教育委員会定例会を予定しています。

以上です。

## 8 閉会

教育長 以上をもちまして、本日の定例会を終了します。

【以上】